

教育振興基本計画の構成(案)

I 計画策定の趣旨等	1 策定の趣旨
	2 計画の位置づけ
	3 計画期間
	4 策定方法
II 本県教育の現状等	1 教育を取り巻く状況
	2 本県教育の課題
III 本県教育の目標等	【 目指すべき姿 】 (調整中 仮置き) 社会総がかりで宮城の子どもの明日(未来)を拓く ※この部分は、計画素案の検討過程で確定させていく。
	【 計画の目標 】 ○ 社会で自立する力の育成 ○ 人間性、社会性の育成 ○ 教育基盤の充実と連携 ○ 生涯学習による地域づくりの推進
IV 施策の基本方向 (施策の柱立て)	1 社会で自立するための確かな学力 2 豊かな心と健やかな身体 3 特別な支援が必要な子どもたちの教育 4 情熱に富み、人間性豊かで確かな指導力を持つ教員 5 質の高い学校教育環境 6 家庭教育、子育てへの支援 7 地域全体で取り組む子どもを育成する協働教育 8 個性と活力に満ちた生きがいのある県民生活 9 県民総スポーツ社会の実現 10 郷土の文化芸術と県民文化
V 計画の推進	1 アクションプランの策定
	2 関係団体・関係機関との連携
	3 計画の普及
	4 進行管理

本県教育の課題・現状認識

- 学力・学習**
- 学力（知識・技能・活用力・応用力）の定着不足
 - 学習意欲の低下、学習習慣の定着が不十分
- 今日的な社会状況への対応**
- ICT教育の課題
 - 国際化への対応
 - 環境問題への対応
- 進路（進学・就職）**
- 大学等への現役進学達成率等が全国平均と乖離
 - 就職に対する雇用情勢の影響
 - 進路達成意識が希薄
 - 離職の増加、フリーター志向、ニートの増加
- 特別支援教育**
- 特別支援教育のあり方
- いじめ・不登校**
- いじめや不登校などの問題行動が慢性化
 - スクールカウンセラー等の不足
 - 多様な生活体験の不足
- 健康・体力・運動能力**
- 体力・運動能力が長期にわたり低下
 - 食育の推進が求められている

- 学校運営・教員の資質**
- 教師の資質向上が求められている
 - 学校・教師の負担感
- 学校教育の環境**
- 高校の再編・入学者選抜
 - 学校施設の整備・充実
 - 少人数指導・学級編成の弾力化
 - 開かれた学校
 - 私立学校教育の振興の方策
 - 教育行政の在り方

- 家庭・地域**
- 家庭の教育力の低下と孤立化
 - 地域の教育力の低下
 - 学校と地域の関わりが希薄
 - 子育て・幼児教育の環境整備が必要
 - 地域の安全確保

- 生涯学習**
- 主体的・自発的に学べる多様な学習機会の提供
 - 退職者増加と就労人口減少社会の生涯学習環境
 - 生涯学習による地域づくり
- スポーツ**
- 競技力の維持・強化
 - 生涯スポーツの環境が不十分

- 文化・芸術**
- 子どもが文化芸術に触れる機会の不足
 - 地域間の格差
 - 資源の活用が不十分
 - 地域の文化活動の衰退

審議会の主な意見

- 人づくり
 <徳育>
 ○小中学校は人格形成に大きく関わる。挨拶・礼儀等の当たり前のことができるようにすることが大切
- 個人主義が行き過ぎて、自己中心的な感覚が家庭にあり、全体の中の一員という意識を根付かせることが必要。
- <人間関係>
 ○人間関係を学び直すことは難しい。学力よりも社会に生きる力として、人間関係の力をつけるべき。
- コミュニケーション能力の育成が大事
- <知育>
 ○全国学力・学習状況調査の結果から子どもの学力の現状に対する危機感を共有したい。
- 学力向上は小中連携が大事
- 学力とは算数ができるということだけではない。
- <生きる力>
 ○知・徳・体のバランスが取れた子ども。
- 夢を持ち、地域の将来を考える子ども。
- 夢や目標を見つけ、モチベーションを高める。
- 成長の差は意欲の差。

- 教育環境
 ○子どもの健全な成長を阻害している要因を分析することが効果的な施策につながる
- 学校に多くの責任が負われ、忙しく時間の余裕がないのが現状
- 教師が忙しく、教育に割くマンパワーが不足している。
- 私学の良さや必要性を問いたい。

- 家庭教育
 ○教育の原点は家庭にあり、そこを疎かにしてはいけない。
- 働いている母親は、多忙で生活も夜型になり子どもの生活習慣や教育に無関心の親も多くなっている。
- 家庭の中の時間の使い方については、「テレビ・携帯から読書」というような標語を用い具現化したい。
- 県内に「お父さんたちの会」が増えていることは危機感を反映している。
- 世の中が変化している中で、親としてあるべき姿を考えていく必要がある。

- 地域の教育力
 ○地域の中で子ども達を関わりが増え、地域の中でコミュニケーションが作れると良い。
- ワーク・ライフ・バランスの感覚を身につける教育も必要
- 携帯電話の普及に伴う問題を家庭・地域の役割の中で深めていく。

- 生涯学習・スポーツ・文化等
 ○社会教育、生涯学習にもっと重きを置く必要がある。
- 地域総合型スポーツクラブの活動では、人、場所といった資源が足りない。
- 生涯学習による地域の人づくりが最終的には子どもたちに還元される。
- 社会、社会人の教育が子どもの教育に関わってくる。

県民意識調査

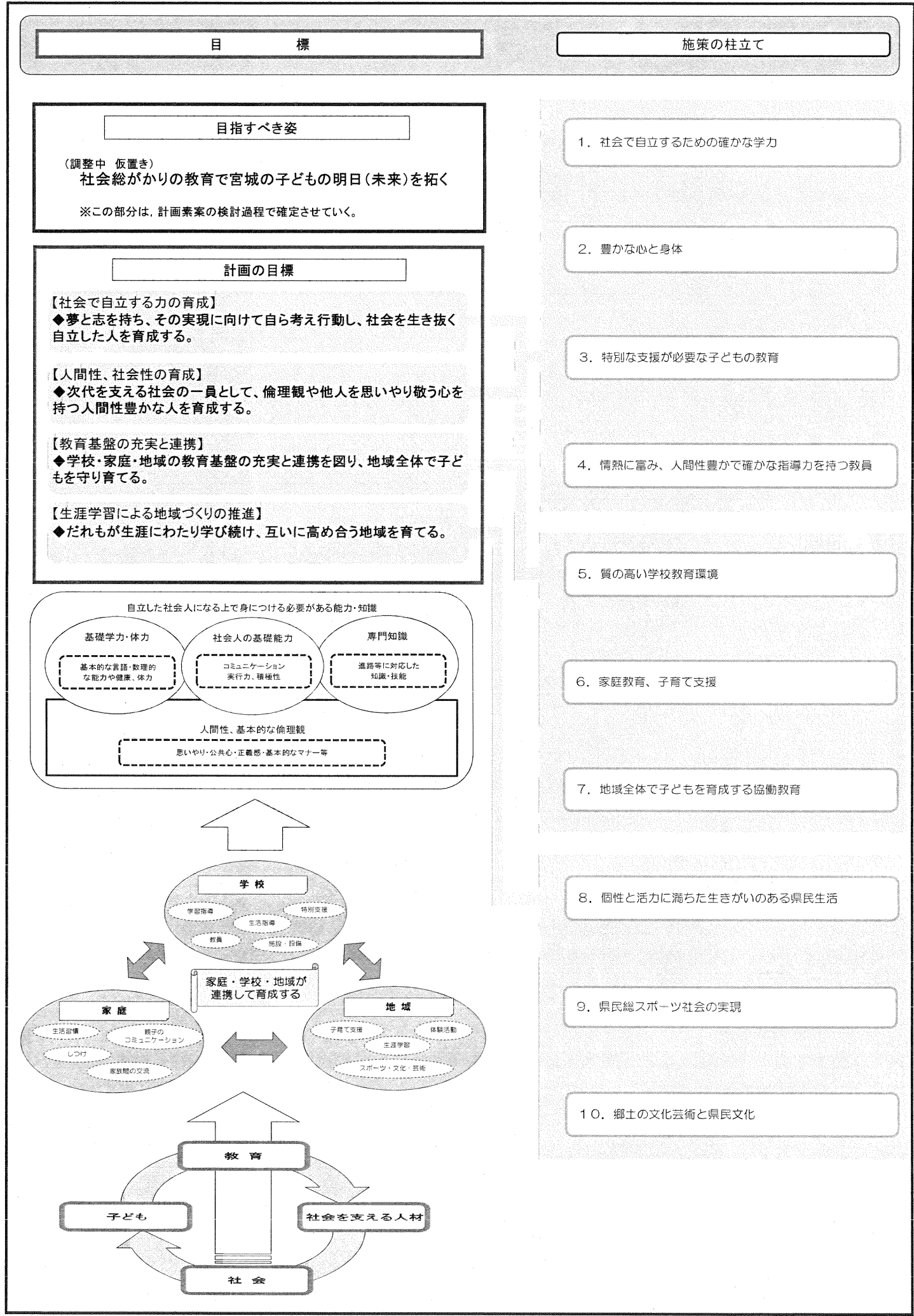
- 【どのような人が必要か】
- ① 社会のルールを守り、正義や責任などの気持ちをしっかり持つ人。（18.1%）
 - ② 良い人間関係をつくるコミュニケーション能力があり、人と協力して物事にあたる人。（16.5%）
 - ③ 自分で考え行動するなど、自立心をもつ人。（15.0%）
 - ④ 苦しさ、つらさなどに耐える力をもち、ねばり強くものごとにあたる人。（14.6%）

- 【子どもが育っていく上で必要なこと】
- ① やってよいこと、いけないことの判断ができる。（18.5%）
 - ② 困ったときにどうするか、状況を見て決められる判断力を持つこと。（14.0%）
 - ③ 身体が丈夫で健康なこと。（12.6%）
 - ④ 他人の立場を理解し尊重できること。（12.2%）

- 【行政で特に力を入れてほしいと思うこと】
- ① 教員がゆとりを持って子どもの相手ができるよう教員の数を増やす。（23.2%）
 - ② 教員の資質を向上させること。（22.4%）
 - ③ 社会の変化やニーズに合わせて教育の内容を見直す。（13.6%）

- 【教育環境で特に大切なこと】
- ① 安全・安心な地域づくり。（16.6%）
 - ② 親子のコミュニケーション。（14.3%）
 - ③ 隣近所、大人と子どもの関わりが多い地域。（10.1%）

- 【生涯学習、スポーツ、文化芸術の活動を充実させるために必要なこと】
- ① 地域での交流・仲間づくり。（25.5%）
 - ② 放課後の学校や公民館・体育館・広場などの活動拠点の充実。（16.2%）
 - ③ スポーツクラブやサークルなどの活動団体の設置。（14.6%）



施策の柱立て	【想定する重点的な取組】	審議会の意見	県民意識調査結果 【県民の意識が高いもの】	意見聴取会
<p>1. 社会で自立するための確かな学力</p> <p>【例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○総合的かつ計画的な学力向上対策。 ○発達段階に応じた系統的なキャリア教育。 ○産業界等と連携した職業教育・ものづくり教育。 ○高度情報化社会に対応した情報教育。 ○ふるさと教育（郷土の伝統・文化）と国際理解教育。 ○福祉、人権や環境等に関する教育。 など 	<p>【想定する重点的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学力向上に対する取組 ○キャリア教育に対する取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の目的は自立による幸せの実現 ・学力低下の現状に危機感 ・全国学力調査結果に見る格差の原因をしっかりと検証・分析する必要がある ・校種間連携の強化 ・自主性、自立心 ・学ぶ意欲、夢を持つこと ・子どもと社会人の交流 ・憧れ、目標となる大人が存在 ・生命科学、歴史学等を用いて我々の命が繋がっているという感覚を育てる ・携帯電話普及に伴う問題点 ・教員OBなど地域の人材を活用することで教員不足に対応するとともに、地域の人達の生きがいに繋がる ・県産品の認識と愛着を育てたい ・住んでいる地域が大好きという教育 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドリル学習など各教科の基礎基本 ・効果的な家庭学習の方法の研究 ・学校の学習で十分な学力が身に付くこと ・教員の資質向上 ・基礎的な学力（小・中学校） ・基本的な生活習慣（小学校） ・適性や希望を踏まえた進路指導（高校） ・学習指導の充実（高校） ・早いうちに将来なりたい職業などの希望を持ち、目標に向けて努力させること 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の向上 ・図書館を活用した学力向上 ・「勉強が大事」という考えを親に浸透させる ・授業づくり、教師の指導力 ・小中学校教員相互のコミュニケーション ・農業、水産業、製造業の盛んな宮城ならではの人材育成 ・学校、企業、行政が一体となったものづくり教育環境 ・専門高校の授業を小中学校の保護者や教師に見学させる ・自分の生涯をより良く生きるための「キャリア教育」 ・子どもの適性や隠れた能力を引き出す進路指導 ・郷土の先人による各分野の優れた業績、成果を授業で活用する
<p>2. 豊かな心と健やかな身体</p> <p>【例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○命を大切にできる心の教育。 ○思いやりや共生の心を育む教育。 ○コミュニケーション能力の育成。 ○感性をみがく教育。 ○体験を生かした心の教育。 ○いじめや不登校の未然防止、早期対応。 ○体力、運動能力の向上に向けた学校体育の充実。 ○学校体育と地域スポーツ活動の連携。 ○地域保健等連携や健康に関する知識の習得。 ○安全教育、学校の安全体制の整備。 ○学校給食、栄養教諭を活用した食育の推進。 など 	<p>【想定する重点的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○豊かな人間性、社会性の育成に対する取組 ○いじめ、不登校等の問題行動に対する取組 ○体力、運動能力の向上に対する取組 ○災害に備える教育に対する取組 ○食育の取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・知・徳・体のバランス、生きる力を持った子どもを育成 ・学力よりも人間関係、コミュニケーション能力が重要 ・学ぶ意欲、夢を持つこと ・宮城の自然を活用し、発想力豊かな子どもを育成 ・科学教育を用いた道徳教育 ・親子兄弟の情愛や友達との友愛、教える人たちへの敬いの気持ち ・「心」の育て上げ ・学校は、集団の中で、生きる力、人との付き合いを学ぶ貴重な場 ・中学生の不登校の要因を掴む必要性 ・歯の健康 ・県産品の認識と愛着を育てたい ・宮城県の豊かな自然、食文化、歴史、文化を学習の場に生かす 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で考え行動する自立心 ・社会のルール、正義や責任などの気持ち ・コミュニケーション能力、よい人間関係をつくること ・人と協力してものごとにあたること ・体が丈夫で健康なこと ・困ったときどうするかを判断力 ・善悪の判断 ・いじめ・非行・不登校などへの対応強化 ・テストの点数より将来に夢を描いて努力すること、命を大切にできる心や思いやりの心 ・奉仕活動や福祉体験を通じて思いやりの心や公共心を育てること ・親と子のコミュニケーション ・遊びを通していろいろな経験をさせること（幼稚園） ・美しいものに感動する心、好奇心を持ってものごとの様子を探る心（幼稚園） ・道徳教育の充実 ・教師と児童・生徒のよりよい人間関係（中学校） ・親が仕事で忙しく子どもと過ごす時間が少ないなどの家庭環境の改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく、楽な方に流され、物事に粘り強く我慢強く取り組む子どもが減少 ・規範意識が薄れている ・幼児の群れ遊びを通じて協調性、ルールの大切さ、命の尊さを学ばせる ・部活に過熱しない文武両道 ・不登校問題等の解決のための小中連携 ・学校経営の問題が不登校の原因になる ・学校や家庭に能動的に働きかける不登校支援センターが必要 ・問題行動対応のための関係機関ネットワーク ・社会性、自立心、コミュニケーション能力 ・自己肯定感、自尊心、達成感、挫折感 ・競争の中で負ける体験、我慢しなければならない体験が必要 ・年代の違う子ども達同士で社会性を育む体験が必要 ・中1ギャップ、ニート・フリーター問題への対応のためキャリア教育を強力に推進 ・夢や希望を持ち、自分のあり方や生き方を見つめ、自己実現を目指す ・学校と家庭の役割を明確にし「心の教育」を充実 ・周囲の大人が愛情を持ってかわかること ・人間同士の信頼関係を築くことを学習できる場が必要 ・音楽、図画工作を通じて豊かな心、寛容な心を育てる ・栄養教諭を全県に配属し食育を推進 ・スポーツの中でコミュニケーション能力を磨く ・子どもの減少により部活動が危機的状況
<p>3. 特別な支援が必要な子どもたちの教育</p> <p>【例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育の専門性の向上。 ○障害のある生徒への就労指導の充実。 ○家庭、地域との連携体制。 ○特別支援教育の理解促進。 ○特別支援学校における医療ケア。 ○外国籍児童生徒、帰国子女等の支援。 など 	<p>【想定する重点的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育に対する取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような教育が適切かは、障害の種類によって異なるので、専門家の助言を参考にすることが望ましい ・学校の選択は、保護者や本人の意思を第一に尊重すべきである 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような教育が適切かは、障害の種類によって異なるので、専門家の助言を参考にすることが望ましい ・学校の選択は、保護者や本人の意思を第一に尊重すべきである 	<ul style="list-style-type: none"> ・「共に学ぶ教育」の理念 ・障害児一人一人に合った教育環境整備 ・普通学校に通う障害を持つ子どもへのサポート ・保育園、幼稚園にも特別支援教育が必要 ・高校、大学での軽度発達障害者へのメンタルなサポート ・自閉症の子どもの親に緊急時のサポート ・障害児本人や保護者の教育相談、進路・就労相談の充実 ・就労支援センターの早期立ち上げ ・保護者と学校の協働による新しい特別支援教育の創造 ・中学校教員の養護学校での研修機会 ・各適応支援教室の充実への支援
<p>4. 情熱に富み、人間性豊かで確かな指導力を持つ教員</p> <p>【例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○指導力向上に向けた教員研修の充実、実践的研究。 ○小・中・県立学校の連携、研修センターの活用。 ○教員採用選考、人事管理の工夫改善、評価制度の活用。 ○教職員の健康管理。 など 	<p>【想定する重点的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教員の資質向上に対する取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の負担感、マンパワー不足 ・教育者はプロのサービススタッフ ・公平に子どもと接する教員が県民から求められている ・教員OBなど地域の人材活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と児童・生徒のよりよい人間関係（中学校） ・子どもによくわかる教え方をする教員（中学校） ・子どもの立場になって考える教員（小学校） ・教員の資質向上（行政） ・公平に子どもと接する教員（小・中学校） ・子どもの適性を把握し、個性を伸ばす教員（小・中・高校） ・高い専門的知識や技術を持つ教員（高校） ・何でも気軽に相談できる教員（高校） 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が教育に専念できる条件整備 ・魅力ある教師を作ること ・人としての生き方の見本を示す教師 ・教師の使命感や職業観 ・教員の学校外研修の必要性 ・地元出身の教員の比率を高める ・「授業づくり」が教師と子どもの信頼関係の基本
<p>5. 質の高い学校教育環境</p> <p>【例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○習熟度別学習や少人数の授業の導入実施。 ○学校の公開と情報提供。 ○学校評価の推進と学校評議員制度の活用。 ○県立高等学校の改革、再編。 ○教育委員会による学校経営の支援。 ○施設設備の整備、充実。 ○私立学校教育の振興。 など 	<p>【想定する重点的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○県立高等学校の改革に対する取組 ○開かれた学校に対する取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・憧れ、目標となる大人が存在がモチベーションを高める ・私学の良さや必要性 ・学校の耐震化 ・校庭の芝生化 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の適性を把握し、個性を伸ばす教員 ・高い専門的知識や技術を持つ教員 ・早いうちに将来なりたい職業などの希望を持ち、目標に向けて努力させること 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数加配、特別支援補助員の配置 ・校長の強いリーダーシップの必要性 ・専門高校では、その道の専門技量、職業観を集中的に教育すること ・定時制高校のあり方 ・高等学校定員の適正化、推薦入試制度のあり方 ・学校全職員が危機管理意識を高め、学校の安全のための方法を共有する ・宮城型コミュニティスクール ・ホームページを活用した学校側からの情報提供 ・学校評価や内部評価の公開、外部評価委員会の設置に努力が必要 ・教師、子ども、家庭が学校の目標を共有→学校マニフェスト

<p style="text-align: center;">施策の柱立て</p>	<p style="text-align: center;">【想定する重点的な取組】</p>	<p style="text-align: center;">審議会の意見</p>	<p style="text-align: center;">県民意識調査結果</p> <p style="text-align: center;">【県民の意識が高いもの】</p>	<p style="text-align: center;">意見聴取会</p>
<p>6. 家庭教育、子育てへの支援</p> <p>【例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子育て、家庭教育支援に向けた学習機会の充実。 ○家庭教育支援者の養成。 ○家庭における幼児教育の充実促進。 ○保育サービスの充実。 ○幼・保・小の連携。 ○「はやね・はやおき・あさごはん」推奨運動の展開。 など 	<p>【想定する重点的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本的生活習慣の定着に対する取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どものしつけを地域に求め、家庭の問題としない意識がある。 ・親子の関わり方、コミュニケーション ・大人のあり方、社会のあり方 ・ワーク・ライフ・バランス ・基本的生活習慣の定着 ・家庭の地域社会との関わり方 ・母親が多忙で夜型生活 ・家庭での「人を敬う気持ち」 ・夜更かし、テレビ漬けの子ども ・「テレビ、携帯から読書へ」 ・教育に無関心な親 ・家庭学習時間の確保 ・家庭でのコミュニケーション ・幼稚園に入りたいが入れずに保育所に行く子どもが多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・親と子のコミュニケーション ・人を敬う気持ち、他人への思いやり、いたわりの気持ち(家庭) ・親の積極的な家庭教育への関与 ・基本的な生活習慣の定着(家庭) ・家庭でのしつけや人格形成の教育の不足 ・親の就労環境・家庭環境の改善 ・効果的な家庭学習の方法の研究 ・幼稚園や保育園の延長保育 ・学童保育の充実 ・遊び場や児童館など安心して子どもが集える場の整備 ・仕事をもち保護者への企業の理解と協力をすすめる取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育が全ての教育の根幹である ・「はやね・はやおき・あさごはん」が学びの基礎力を養う ・幼稚園の時間外保育、預かり保育の整備 ・幼児教育への金銭的補助、保護者の教育費負担軽減 ・子育てしながらも働きやすい職場環境の構築に向け、各市町村から中小企業への支援や働きかけが有効 ・家庭に対してしつけを促すことが必要 ・公立、私立、幼稚園、保育所の垣根を越えた幼児教育環境作り ・親自らが企画し、親の育成につながる子育て支援 ・親の教育、未来の親になるための教育 ・子育てに悩みを抱える親
<p>7. 地域全体で子どもを育成する協働教育</p> <p>【例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域による学校支援など、家庭・地域と学校が協働して子どもを育成する体制整備 ○子どもの居場所づくり。 ○地域ぐるみの子どもの安全確保。 ○地域の人材や資源を活用した体験活動。 ○世代間の交流、家族間の交流。 など 	<p>【想定する重点的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○協働教育に対する取組 ○地域の安全、安心に対する取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・大人のあり方、社会のあり方 ・家庭同士の交流、地域の絆がなくなっている ・コミュニティの充実が必要 ・ワーク・ライフ・バランスが地域社会の問題点の一つであることに県民が気づき出している ・社会をより良くする、地域を支えるという意識が低い ・自ら社会に関わろうとしないが、地域に関わることを求めている ・地域総合型スポーツクラブの活動場所の確保が課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・大人と子どもの関わりが多い地域づくり ・人を敬う気持ちや、他人への思いやり、いたわりの少ない地域社会の風潮が問題 ・子どもたちの安全・安心の確保 ・自然体験や社会体験の場の提供 ・礼儀やしつけを教えること ・子育てや教育活動などに必要な時間が確実に取得できる就労環境の整備 ・誰もが参加しやすい子育てや教育に関するイベントなどの活動を増やす ・PTA活動や通学路清掃、防犯パトロール等のボランティア活動に参加している(または参加したい) ・放課後や休日などにおける地域の子どもの活動の世話役を行っている(または行いたい) ・放課後に安心して子どもが集える活動拠点の充実 ・スポーツやレクリエーションなど体を動かす活動に参加している(または参加したい) 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の安全確保のための学校における危機管理意識 ・地域力で学校、先生をサポート ・学校を支援するボランティア同士の交流の機会が必要 ・地域の専門家など多様な人材を学校運営に取り込む仕掛け ・学校、家庭、地域それぞれが協働教育の必要性を理解することが先決 ・地域の教育力を高める必要性に関心の低い保護者や一般市民に啓蒙 ・子ども会の再生(子ども同士、親以外の大人との接触の機会が必要) ・地域で育てた子どもが地元企業の元気の源を創るようになれば望ましい ・行政側での人材バンク(情報)の充実を望む ・宮城の風土として、優れた先人の業績を積極的に顕彰する気風を醸成したい ・放課後子どもプランについて町レベルで連携が取れていない
<p>8. 個性と活力に満ちた生きがいのある県民生活</p> <p>【例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○開放講座など多様な生涯学習機会の創出。 ○生涯学習関係の情報提供。 ○社会教育主事、有資格者の活用 ○生涯学習支援者の養成。 ○学び直し、社会参加への支援。 など 	<p>【想定する重点的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多様な学習機会の提供に対する取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・学び続けること ・教員OBなど地域の人材を活用することで教員不足に対応するとともに、地域の人たちの生きがいにもなる ・社会をより良くする、地域を支える意識、行動が子どもに影響を与える ・生涯学習や地域の家庭教育支援を積極的に進め、学校教育と結びつけることが宮城らしい教育につながる 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども会や町内会などの住んでいる地域で行う活動に参加している(または参加したい) ・地域での交流・仲間づくりが必要 ・放課後に安心して子どもが集える活動拠点の充実 ・県立大学や東北大学などの高等教育機関が、開かれた教育の場として公開講座や出前教室等を行っていることを知らなかったが、受講・参加してみたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・親、大人も常に学び続けること ・一部の恵まれた人だけが参加できる生涯学習制度になっている ・持っている力をさらに伸ばせる高齢者教育
<p>9. 県民総スポーツ社会の実現</p> <p>【例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○総合型地域スポーツクラブ育成。 ○スポーツ活動への参加機会の拡充。 ○組織的なスポーツ選手の強化、競技団体の運営支援。 ○スポーツ施設の活用と整備充実。 など 	<p>【想定する重点的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生涯スポーツに関する取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域総合型スポーツクラブの活動場所の確保が課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での交流・仲間づくりが必要 ・放課後に安心して子どもが集える活動拠点の充実 ・スポーツやレクリエーションなど体を動かす活動に参加している(または参加したい) 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活における身体活動がますます減少していくことから、個人が主体的にスポーツに取り組むことは極めて重要 ・スポーツの中でコミュニケーション能力を磨く ・地域住民が主体となるスポーツクラブが必要 ・スポーツ少年団活動に学校も積極的に関与する
<p>10. 郷土の文化芸術と県民文化</p> <p>【例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文化・芸術に触れる機会の充実。 ○地域の文化・芸術の担い手の育成。 ○貴重な文化財の保存管理、活用。 など 	<p>【想定する重点的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文化・芸術活動に対する取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・宮城県の豊かな自然、食文化、歴史、文化を学習の場に生かす ・県産品の認識と愛着を育てたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での交流・仲間づくりが必要 ・放課後に安心して子どもが集える活動拠点の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽、図画工作を通じて豊かな心、寛容な心を育てる ・宮城の風土として、優れた先人の業績を積極的に顕彰する気風を醸成したい